



《介護保険関連研修①～③》

◆会場：ウインクあいち

◆企画：介護保険関連研修委員会

協会では毎年恒例となっております、老人保健施設の新任支援相談員を対象にした、支援相談員としての基礎的な援助の視点・技術・実際を学ぶ事を目的とした3回連続講座を開催しました。

今年度は初めて、愛知県老人保健施設協会々員の皆さまへ案内を送付した為、非会員の参加者割合が非常に多い研修となりました。皆さま熱心に受講され、仕事に向ける前向きな姿勢を感じる事が出来ました。

最近、老健の支援相談員は、基礎資格が看護、介護、リハビリ職などの方の割合が増加している傾向にあり、新人の内は支援相談員の専門性の確立や自身の立ち位置（視点）に自信を持っていない方が多いように思います。研修講師陣は、専門性の高い大学教授から実務経験豊富な現任 MSW まで幅広くラインアップされており、多方面にわたる様々な研修が用意されています。

今回都合がつかず参加できなかった方も、次の機会には是非ご参加ください。



【グループ発表】



【KJ法を用いた意見交換】

第1回 10月15日(土)

テーマ/講師

「支援相談員のポジショニング」/片山徹氏

(日本福祉大学)

自己を見つめる機会や自己発見から自身の支援相談員としてのポジショニングを見出す内容の研修でした。講師と参加者の距離が近く、リラックスした雰囲気の中、皆さまとても熱心に参加されていました。グループワークの充実度も大変高かった研修でした。

第2回 11月19日(土)

テーマ/講師

「支援相談員の面接技術」/加藤良子氏(大学非常勤講師)

面接技術の一つ「傾聴」に焦点をあて、講義とグループワークを行う研修でした。自身の話し方・聴き方を知った上で効果的に演習を挟みながら、楽しい雰囲気の中、時間ギリギリまでしっかり技術習得する事が出来た研修でした。



【面接技術演習の様子】

第3回 12月10日(土)

テーマ/講師

「支援相談員の援助技術の実際(事例検討)」

/浅野正嗣氏(金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授)

入所相談(インテーク)から退所までの一連のプロセスを実際の事例を通じて支援相談員の援助プロセスについて具体的にイメージし、ポイントを掴む事を目的とした研修でした。事例を通じた講師の熱い情熱が参加者に伝わり、その後の懇親会でも講師を中心に熱い議論が交わされました。



【援助技術事例検討の様子】

